

こころの響き

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エスディー・ジーズ

SDGs（持続可能な開発目標）とは？

エス ディー ジー ズ
S 持続可能な D 開発 G 目標
ustainable Development Goals

エスディー・ジーズ

SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連総会で採択された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

もくじ

P 1	堺市人権教育推進協議会（略称：人権協）とは
P 2	加盟団体の紹介
P 3	SDGs とは？
P 4	寄稿文 島田 妙子 さん
P 5	部会の紹介
P 6	専門委員会の活動紹介
P 7・8	人権協の事業を紹介します
P 9・10	第40回わたしからの人権メッセージ-特選作品の紹介-
P 11	人権啓発 DVD・書籍のご案内

堺市人権教育推進協議会（略称：人権協）では、ここに紹介するイベントを通じて、堺市を中心に人権を人々に広げる活動に日々取り組んでいます。2020年度も様々な活動に取り組んでいきますので、皆様もぜひご参加ください。

人権協ホームページ
<http://www.jinkenkyo.jp>



編集・発行
(2020年2月発行)

堺市人権教育推進協議会

堺市堺区南瓦町3番1号 堺市人権推進課内
TEL 072-221-9280 FAX 072-228-8070
URL <http://www.jinkenkyo.jp>

堺市人権教育推進協議会（略称：人権協）とは

人権協は部落差別をはじめ、一切の差別のない明るく住みよいまちづくりをめざして、1979年7月に発足した市民組織です。各種市民団体、企業、宗教法人等の多くの方々により構成され、すべての人の人権が尊重される平和で豊かな社会をつくるため、様々な人権啓発活動を推進しています。



堺市人権協のシンボルマークは、人と人が手を取りあい、人権を守り、世界の平和を願う姿をあらわしています。

会長 金丸 尚弘

組織図・役員

会長 金丸 尚弘
(堺市人権教育推進協議会企業部会)

副会長 久保 照男
(堺市自治連合協議会)

副会長 山口 典子
(堺市女性団体協議会)

副会長 小林 理恵子
(堺市PTA協議会)

副会長 白本 忠史
(堺市保育会)

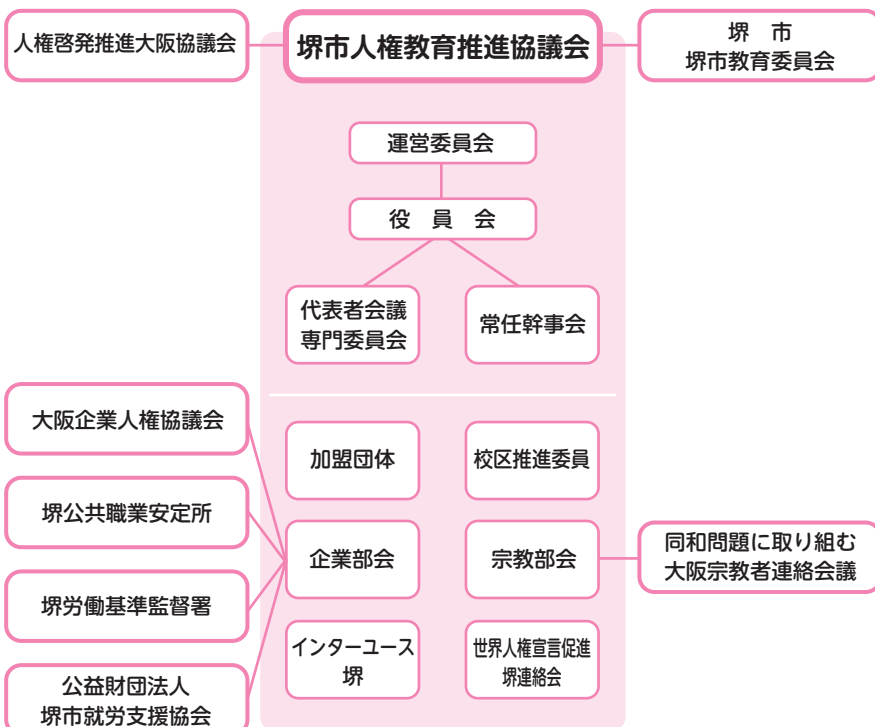
副会長 笠井 泰
(堺市立校園長会)

副会長 竹田 進一
(部落解放同盟大阪府連合会堺支部)

副会長 吉村 誠治
(堺市人権教育推進協議会宗教部会)

会計 小山 敏美
(堺市更生保護女性会)

会計 小倉 美津子
(堺市人権擁護委員協議会堺市地区委員会)



加盟団体

人権協は29団体に加盟していただいています。

- ・ 堺市教育会
- ・ 堺市在日外国人教育研究会
- ・ 堺市女性団体協議会
- ・ 堺市青少年指導員連絡協議会
- ・ 堺市 PTA 協議会
- ・ 特定非営利活動法人さかい民間教育保育施設連盟
- ・ 堺市立校園長会
- ・ 堺地区行政相談委員会
- ・ 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
- ・ 株式会社 UR コミュニティ西日本支社 泉北住まいセンター
- ・ 堺市更生保護女性会
- ・ 堺市自治連合協議会
- ・ 堺市私立幼稚園連合会
- ・ 堺市人権教育研究会
- ・ 堺市保育会
- ・ 堺市民生委員児童委員連合会
- ・ 一般社団法人堺市老人クラブ連合会
- ・ 堺市保護司会連絡協議会
- ・ 自由同和会大阪府本部堺支部
- ・ 部落解放同盟大阪府連合会堺支部
- ・ 堺市こども会育成協議会
- ・ 堺市社会教育委員会議
- ・ 特定非営利活動法人堺障害者団体連合会
- ・ 堺市農業協同組合
- ・ 一般財団法人堺市母子寡婦福祉会
- ・ 堺商工会議所
- ・ 堺市人権擁護委員協議会堺市地区委員会
- ・ 社会福祉法人堺市社会福祉協議会
- ・ 大阪府立学校長協会 第8地区

堺市自治連合協議会

堺市自治連合協議会は、昭和30年3月の社会教育審議会の答申に基づき、昭和31年に全市的な組織の結成をみた新生活運動に始まっています。以来、堺市新生活運動推進協議会の名称のもとに着実な歩み続け、昭和51年9月1日、現在の名称である「堺市自治連合協議会」に改称しました。政令指定都市移行後の平成19年5月に美原区自治連合協議会が加盟し、現在の体制へと発展してきています。

本協議会では、校区自治連合会を中心に、防犯、防災をはじめ、人権啓発、子育て支援、青少年健全育成、高齢者の見守り、世代間交流などの活動を通じて、顔と顔の見える関係を築くことで、子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせる「地域のつながり」を大切にしたいまちづくりに取り組んでいます。

近年、日本各地で台風や豪雨、地震などの自然災害が大きな被害をもたらしています。近い将来、南海トラフ巨大地震の発生が予想される

ことから、より一層地域のつながりを深め、災害時のいざという時に、ご近所同士の協力ができるよう地域の防災力を向上することが必要不可欠と考えています。

そのためには、日頃からの様々な地域活動を通じて、互いに信頼し合える関係を築いておくことが重要です。「自分たちのまちは自分で守る」という理念のもと、地域の住民をはじめ、こども会やPTA、学校園などと連携しながら、地域が一丸となって取り組む必要があります。

本協議会は、将来を担う子どもたちが健やかに成長し、誰もが住み慣れた地域でいつまでも健康でいきいきと生活できる、安全で安心なまちづくりに、これからも取り組んでいきたいと考えます。

より一層地域活動の輪を広げ、地域の活性化に繋げるためには、一人でも多くの方に自治会活動にご参加いただくことが大切です。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

堺市 P T A 協議会

堺市PTA協議会は、堺市立学校園PTA及びこれに類する団体（以下「各学校園PTA」という。）をもって組織する任意団体です。

また、堺市PTA協議会は、各学校園PTA相互の連絡調整に努め、本市PTAの健全な発展を図ることを目的とする社会教育関係団体としての公共性をもつ団体でもあります。

そもそもPTAはアメリカで生まれたものですが、国内でも戦前には、学校への財政的援助や労務的援助を主たる目的とした父母会・保護者会・後援会などがありました。戦後、戦禍で荒廃した状況の中、昭和22年、教育基本法制定に伴い、全国の学校園で「父母と先生の会」いわゆるPTAが組織されるようになりました。本市の各学校園においても、子どもたちの健やかな成長を願って次々とPTAが結成され、昭和24年、これらのPTAが結集して堺市PTA協議会が誕生しました。

堺市PTA協議会は、『声かけ・見守り・おせっかい！あなたが育む堺っ子』一家庭・学校園・地域で築く、つながりの輪を活動目標に掲げ、子どもたち一人一人の健全な成長を願い、日々活動しています。

昨今の子どもたちを取り巻く様々な問題は、ネットトラブルなど複雑化かつ深刻化しています。取り返しのつかない重大な事件になることもあり、家庭・学校園・地域が情報を共有し、手を取り合い連携を強めて子どもたちの安全確保に努めることが必要です。社会に巣立つ子どもたちが幾多の困難を乗り越える力を養えるよう、私たちPTAは、人と人と

のつながりや自尊感情を養うことを大切にするよう導かなければなりません。

「見て見ぬふりより、心あたたまる小さなおせっかい」

子どもたちが、笑顔で生き生きと過ごせる環境づくりのため、私たちは、共につながり、声をかけ、見守り、協力しあい、子どもたちを育むPTA活動をめざしています。

時代は大きく変わり、PTAに対して求められる役割もまた変化しています。私たちには、その変化に柔軟に対応する力が必要とされています。

そこで、平成30年に堺市が「SDGs未来都市」に選定されたことを受け、私たちもSDGsに関心を持ち、SDGsの持続可能な社会を実現するための17のゴールを意識した活動を始めました。これまでの堺市PTA協議会の旗を一新し、「堺市P×SDGs」を前面に出したマークで、その姿勢を鮮明にしました。また、地域ボランティア団体と連携した清掃活動の実施や、「つながり」を意識したSDGsの手ぬぐいを作製し啓発するなど、まず私たちが楽しみながらSDGsを意識して活動することを心がけています。

これからも堺市PTA協議会として、時代の変化に対応しつつも、先達より培われてきた子どもたちを健やかに育てていく、「健全育成の心」を大切に活動してまいります。

堺市 P×SDGs



～子どもたちを守り、その夢を築き上げるために～



持続可能な開発目標

Sustainable Development Goals



SDGsとは？

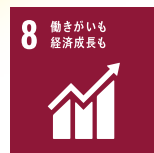
エスディー・ジーズ



2015年の国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核をなすもので、2016年から2030年までの15年間に、貧困や不平等・格差、気候変動、資源の枯渇、自然破壊などの様々な問題を解決し、私たちの世界をよりよくすることをめざす、世界共通の17の目標です。



SDGsは、地球上の
「誰一人取り残さない」
ことを掲げています。



堺市は、2018年6月に、国から「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの実現に向けた取組を進めているんだ！

SDGsは「2030年の世界のあるべき姿=様々な課題が解決された、持続可能な社会」を実現するための17のゴール（目標）で、その下に、169の具体的なターゲットと232の指標が定められているよ。

人権協の取組

人権協では、各種イベントを開催し、SDGsの周知・啓発を行っています。SDGsを多くの人に知ってもらうため、SDGsのパネルやシールも作成しました。

SDGsは、今、私たちの世界が直面している様々な問題を解決することをめざしています。SDGsの目標を達成するために何ができるのか、私たち一人ひとりが考えることが大切です。

今後も、堺市や関係団体などと連携・協力して、幅広い人権教育・啓発活動を推進するなど、SDGsの実現に向けた取組を進めていきます。



SDGsのパネル展示の様子



SDGsのシール

虐待の淵を生き抜いて

～人にも自分にもあたらない、
誰ひとり取り残さない社会をめざして～



一般財団法人
児童虐待防止機構オレンジCAPO 理事長

島田 妙子

豊かになったはずの日本で、虐待によって命を落とすほどの事件が増え続けています。

事件になるたびに、「ひどい親だ」もしくは「難しい問題だ」という言葉を聞きます。

私は中学二年生の頃まで六年間、父と父の再婚相手から壮絶な虐待を受けて育ちました。

何度も命を落としかけながらも、兄二人と支えあいながら生き延びることができましたが、今こうして命があることは奇跡だと感じています。

幼かったころは、「誰かうちのお父ちゃんを助けて」と心の中で叫んでいました。

自分も、もちろん助けてほしかったのですが、優しくった頃の父を覚えていましたから、暴力と暴言にまみれていく父の変わっていく人相の変化を見ることは、なによりも辛かったのです。

中学二年生の時に、27歳の女性教師が私の命を救ってくれました。やっと信頼できる大人に出会った私が、これまでのことを打ち明けることができたのです。

「親であってもやったらアカンもんはアカンのです」と。

そして六年間暴力をふるってきた父に「昨日までのことはもういい、だって昨日には戻れませんから」と救いの言葉をかけました。

その後、中学卒業まで児童養護施設でお世話になることができました。

安心して眠れるということ、温かいご飯を遠慮なく食べられるということ。そして、素直に感じた気持ちを言葉に出していいのだということは何よりも素晴らしいことだと感じています。

人はイライラすると、あたりやすい人やモノにあたってしまう。感情はクセになっていきますから、あたってしまったときに、謝れず「しつけど」などと言ってしまうと加速し、そ

れが虐待に発展してしまいます。

怒りを感じると、体の中ではある変化が起きている。

アドレリンというホルモンが発生しているのです。アドレナリンは交感神経が興奮した状態で分泌されます。闘争か逃走か（fight-or-flight）のホルモンと呼ばれており、動物が敵から身を守ったり、獲物を捕食する必要に迫られたときなどに血中に放出され、心拍数や血圧を上げ、瞳孔を開き、ブドウ糖の血中濃度（血糖値）を上げる作用があります。

つまり、興奮状態になるわけで、このアドレナリンが発生している間に反射的に行動したり、言葉を発すると、思わぬ言動をしてしまいます。

アドレナリンが分泌され、体中の隅々の細胞にいきわたって消滅するまでの時間は長くても約六秒と言われています。ということは、六秒間は何もしない、やり過ごすということが大切です。

反射的な行動をせず、六秒間やり過ごし、アドレナリンがなくなってから怒るか怒らないかを冷静に決めればいいのです。多くの場合、怒る必要がないことを機嫌で叱ってしまうことがあるので大人は注意したいものですね。

「自分の機嫌くらい自分で取れるようにする」感情のトレーニング次第で虐待は無くせます。精神の安定をつかさどるホルモン「セロトニン」は鼻から吸って口で吐く深呼吸で分泌させることができます。怒りそうになったら深呼吸をしてアドレナリンをやり過ごし、セロトニンを分泌させていきましょう。

「平和と公平をすべての人に」

私は、虐待を防止することが、SDGsの目標達成につながると信じています。

人権協は、企業部会、宗教部会、インターユース堺、世界人権宣言促進堺連絡会の4つの部会を設置しています。今回は企業部会、インターユース堺の活動を紹介します。

企業部会

部会長 金丸 尚弘（株式会社 栄光）

会員事業所数／429事業所（2019年12月現在）

企業部会は、「しない させない 就職差別」をスローガンに、企業の立場から就職差別の撤廃や、同和問題をはじめとする人権問題の解決をめざす組織として1982年に設立されました。

当部会は、堺市内の事業所で構成し、人権に関する各種研修会の開催、就職差別撤廃月間駅頭啓発活動の実施、「企業部会だより」の発行など、就職における機会均等の保障や職場での人権意識の向上に取り組んできました。

今年度も、外国人労働者の雇用と人権をテーマにした講演会の開催、障がい者雇用を積極的に推進している事業所の見学、平和関連施設での研修など、人権の基本的理解や他者理解を深める研修を実施しています。

私たち企業部会は、これからも公正な採用選考はもとより、働く人一人ひとりの人権課題に関する認識を深め、互いの人権を尊重し、誰もが自分らしく暮らすことのできる社会を実現してまいります。



インターユース堺

会長 白本 忠史



インターユース堺は、「人権啓発活動」「交流活動」「社会貢献活動」を3つの柱として、青年に様々な社会参加の場を提供することにより、自らが主体的に考え、行動していくことの大切さに気づき、多様な人々との交流や連帯を経験することで、優れた人権意識と国際感覚を身につけ、平和や人権が尊重される社会の実現に貢献できる人材の育成を目的としている団体です。

前身の国際青年年堺連絡会から35年間、様々な事業を展開し、400名以上の青年が参加してきました。インターユース堺を経験した青年の中には、その後の進路において、JICA（国際協力機構）等のJOCV（青年海外協力隊）等深く国際貢献に関わる者、さらに勉学に励み他国への留学を選んだ者、公共の福祉の道を選び本市職員や看護、教職の道に進んだ者等がいます。

今年度のカリキュラムでは、前期研修として、世界の人権の流れやジェンダー、同和問題、アイヌ民族等についての人権研修を行い、夏には、台湾原住民族の方々との交流を含めたスタディツアーを行いました。そこでは、様々な年代の方との交流をとおり、現地に行くことでしか得ることのできない貴重な学びに気付くことができました。

また、スタディツアーを含めた様々な研修で得た経験を、広く市民の方々に発信するため、報告集会も行いました。

今後も青年の育成を目的に活動をしてまいりますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



同和問題専門委員会

同和問題専門委員会では、同和問題の歴史や現代社会における課題などについて、まずは委員一人ひとりが正しく理解し、その成果を他者に伝えることを目標として活動しています。

2019年8月の全体研修会第2部の分科会において、柴原浩嗣さん（一般財団法人大阪府人権協会業務執行理事兼事務局長）の進行のもと、結婚やインターネットに関わる部落差別の事例をもとに、ワールドカフェ方式で自身の考えや感じたことなどを自由に意見交換しました。

参加者からは、「正しい知識を広げることが大切だと思う。」「ネットと差別について、もっと考えないといけないと思う。」などの意見が出されました。

代表：白本 忠史（堺市保育会）

【ワールドカフェとは】

カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、4人ぐらゐを一つのグループとし、それぞれが自分の考えや思ゐを発言できる場をつくりまゐす。

グループは国にたゐえられ、メンバーの組み合わせをゐえながら他の国とゐわり議論を深め、全員が積極的に参加できる手法のことです。

女性と子どもの人権専門委員会

女性と子どもの人権専門委員会では、身近なこゐとから、女性と子どもの人権を守るために何をすべきかゐいうことを考えて活動しています。

2019年8月の全体研修会第2部の分科会において、暴力の種類・原因・共通点について、『“SDGs”で考える暴力のない社会へ～体罰、虐待、いじめ、DV、性暴力～』をテーマにワールドカフェ方式によって和やかな雰囲気ではし合ゐが行われました。

参加者からは、「他人の気持ちになつて行動する。」「孫にしっかりと暴力のことを教ゐていきたい。」などの意見が出され、「みんなで暴力のない世界をめざすこゐとは、みんなで誰一人取り残さない社会をつくるこゐ。」を確認しました。

今後も、皆様とともに人権について考えていけたらと思ゐます。

代表：山口 典子（堺市女性団体協議会）

障がい者と高齢者の人権専門委員会

障がい者と高齢者の人権専門委員会では、当事者の方をお招きし、講義していただくことを中心に活動しており、その方々の人権を守るために何をすべきかゐいうことを深く理解し、啓発できるように取り組んでいます。

2019年8月の全体研修会第2部の分科会において、8050問題の現状と予防について、実際引きこもりに陥ってしまった当事者を講師としてお招きし、当時の気持ちや社会復帰までの過程をお話していただきました。

様々な社会問題に対し正しい認識を持ち、自分たちに何ができるのかを考えておくことが大切だと思います。

今後も誰もが輝ける社会を築いていけるように、人権啓発活動の輪を広げていけたらと思ゐます。

代表：松川 了篤（人権協宗教部会）

【8050問題とは】

日本で発生している長期化した引きこもりに関する社会問題。若者の引きこもりが長期化することで、親も高齢となり、収入や介護に関して、問題が発生するようになりました。80代の親と50代の子の親子関係での問題であることから8050問題と呼ばれています。



島田妙子さんの講演の様子



全体研修会

2019年8月21日 場所：堺市教育文化センター（ソフィア堺）

全体研修会では、第1部に「虐待の淵を生き抜いて～人にも自分にもあたらない、誰ひとり取り残さない社会をめざして～」をテーマに、島田妙子さん（一般財団法人 児童虐待防止機構オレンジCAPO理事長、兵庫県児童虐待等対応専門アドバイザー）を講師に招き、講演を行いました。

また、第2部では、各専門委員会が主体となり、同和問題分科会、女性と子どもの人権分科会はワールドカフェ方式で、障がい者と高齢者の人権分科会は、講師を招いて講義形式で分科会を開催しました。詳細については、6ページの「専門委員会の活動紹介」に掲載しています。

熱心にご覧いただいています

区民まつり

毎年度、各区役所が行う区民まつりで、人権に関するパネル展示を行い、人権啓発につとめております。

今年度も多数の方にお越しいただき、熱心にパネルを見ていただきました。

また、今年度より一部の区民まつりにてエコバックに自由にお絵かきをするワークショップを行いました。ブースを訪れた子どもたちが、熱心に絵を描き、自分だけのエコバックを作っていました。

今後も、区民まつりなどで人権協の活動を見かけたら、ぜひお立ち寄りください。

上手に描けたかな？



人権を守る市民のつどい

2019年12月15日 場所：ホテル・アゴーラ リージェンシー大阪 堺

12月4日から10日までの人権週間に伴い、市民の皆様とともに人権について考え、人権尊重の輪をさらに広げていく機会として、第41回「人権を守る市民のつどい」を開催しました。

第1部では、市民の皆様から募集しました「わたしからの人権メッセージ」の特選受賞者の表彰や作品の発表、人権意識と国際感覚を身に付けた青年を育成するインターユース堺による海外派遣団活動報告を行いました。

また、第2部では、「女性の貧困、子どもの貧困」をテーマに、神原文子さん（社会科学博士 神戸学院大学現代社会学部学部長、教授）にご講演いただきました。

神原文子さんの講演の様子



校区推進委員研修会

毎年10月～11月に堺市内の7区で、校区推進委員の皆様を対象に人権に関する研修会を実施しています。

2019年度は、各区で下記のとおり研修会を開催しました。多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

区	開催日	テ ー マ	講 師
北	10月2日(水)	同和問題	池谷 啓介さん (NPO 法人 暮らしづくりネットワーク北芝)
東	10月28日(月)	「人権を生かすまちづくりについて」	
堺	10月3日(木)	女性の人権	雪田 樹理さん (女性共同法律事務所 弁護士)
美原	10月10日(木)	「ドメスティックバイオレンス(DV)について」	
南	10月24日(木)	インターネットと人権	石川 千明さん (NPO 法人 奈良地域の学び推進機構理事)
中	11月18日(月)	「インターネットと人権について」	
西	10月25日(金)	高齢者の人権 「高齢者虐待について」	水上 然さん (神戸学院大学 准教授)

ピック
アップ
同和問題

「人権を生かすまちづくり」

町の住民一人の意見であっても皆で考えること（つばやきひろい）、地域外の人に自分たちの地域について知ってもらうことを軸とした、一人ひとりを大切にするまちづくりについて学びました。

配食サービスなど、こんなサービスがあったらいいな、という思いを地域の皆で協力して実現する。朝市をはじめとした、皆が行ってみたいと思えるイベントを行う。地域のことを「知らない」ために生じる差別意識の解消にもつながり、一人ひとりの人権を尊重しながら皆が楽しめる地域の取組についてお聴きし、新たな発見が数多くありました。



【校区推進委員について】

校区自治連合会役員、単位自治会長、校区内各種団体委員、校区内で人権啓発に熱意のある方の中から、堺市自治連合協議会校区代表者によりご推薦いただき、小学校区での人権啓発活動を展開していただいています。



作品集には、応募された3,231点の作品のうち、特選作品20点を掲載しています。

作品集ホームページ

<http://www.jinkenkyo.jp/past-message/>



親子のかたち（小学校3年）

ぼくのお母さんは小さいころネグレクトをうけていた。

ネグレクトとは「いくじほうき」というギャクたいのことだ。

お母さんは、生まれてすぐにぼくのひいおばあちゃんの家にあずけられて、小学校に入ってからぼくのお母さんのお母さんとくらしはじめた。

でも、学校にはあまり行かなかった。

だれも帰ってこない家でせんとくやごはんを作ったり、かぜをひいても自分でふとんをひいてねていたんだって。

そして大きくなったお母さんは家を出て、たくさん仕事をしてぼくのお父さんと出会った。

けっこんして子どもをうんだお母さんは、たくさんぼくと遊んでくれた。

毎日おいしいごはんを作ってくれるし、家はいつもきれいだ。

お兄ちゃんとぼくと妹をととてもあいしてくれている。

でもお母さんはすごくさみしがりで、買い物も一人で行かない。

いつもいっしょに行こうという。

だからめんどくさいなあと思う時もあるけどいっしょに行っておあげる。

だからぼくもさみしがりやなのかもしれない。

あたり前のようにすべての人がりょう親とくらしるわけではない。

お父さんだけだったり、お母さんだけだったり、りょう方いない子もいたりする。

だからぼくは、ギャクたいのニュースを見るととてもかわいそうで、こわくなったりする。

ギャクたいでしんでしまったり親とはなれてくらししてる子がいる、とテレビで見るととても心がいたくなる。

ぼくが大人になって、子どもがうまれたらすごくうれしいと思う。

でも今のぼくのようにしあわせな生活をさせてあげられるだろうか。

今もさみしい思いや、つらい思いをしている子がたくさんいる。

でもぼくのお母さんのように自分の力でしあわせになれる！ということのをわすれずに、人生を大切に生きていけたらいいなと思います。

障害者と人権（中学校1年）

僕にとって障害は身近です。何故なら僕は専門医が見ても微妙な軽いADDだからです。ADDとは注意欠陥障害の略で、その名のとおりに集中しないといけなことがあるときに、別のことに集中してしまったり、僕はなないけど音に敏感だったりすることもあります。

友達も障害がある人が多いです。でも、いじめとか差別とかはあまり聞きません。

友達のうちの一人がこう言っていました。「気にしないでいいよ。」と。はじめは何のことが分かりませんでした。いろいろ考えてその意味が分かりました。僕はそのとき、その友達がもし、いじめられていたら・・・と考えるととても心配で、その友達の名前を聞くだけで反応するようになっていました。そんな僕のことを見て心配になったのか、「気にしないでいいよ。」と言ってくれたようです。

僕は何かトラブルに巻きこまれないことを意識しすぎて、友達の話をちゃんと聞いていませんでした。本当は、特別扱いもされないような、「障害者だから」というようなことを気にしなくてもいい友達になりたかったそうです。

僕が小学一年生のとき、こんなことがありました。一年生になって、発達障害のことを気にしはじめた僕は、泣きながら母にこう言いました。「発達障害になんかなりたくなかった。」と。宿題のプリントを一枚やるだけで一時間かかるし、学校では集

団行動で毎回ミスする。そのせいで誰かに迷惑をかけて嫌われる。そんなことが続いて、ストレスが爆発した。

そんな僕に、母はこう言いました。「障害はそんなに特別じゃないし、悪いことでも珍しいことでもない。個性なんだよ。」と。その日から、僕は障害のことを意識しないことにしました。友達もそんなに気にしていないし、そう考えるようになってからは前より楽で楽しかったのです。

僕は友達の言葉の本当の意味を知ったとき、あのときの母の一言で障害は個性だと思って意識しない方が楽なこともあるということを学んだのに、友達のことを特別扱いしてしまっていたと気付かされました。

障害がある人には、手助けが必要なときもあります。でも、僕やその友達の例から、時には「特別扱いして欲しくない。」という場合もあります。

「助けすぎず、助け合う」難しそうですが、楽しく普通にコミュニケーションをとってくれればいいんです。守られるだけが僕たちの幸せではありません。「障害者だから守る。」「高齢者だから助ける。」のではなく、大事なのは障害の有無や年齢などいろいろなことにとらわれず、相手がどんな人でも、その人の言葉に耳をかたむけ、気持ちに寄り添うことであり、人権を尊重するということだと思います。



遊園地で思いっきり楽しみたい（支援学校高等部3年）

私の両親も私も耳が聞こえません。私の弟妹も何人か聞こえません。そんな私たち家族には共通点があります。それは遊園地のアトラクションがとても大好きなことです。スリル満点で非日常を味わうことができるので、日ごろのストレス発散になります。

しかし、アトラクションの説明を受けるとき、いつも聴覚障がいがあるからという理由で「同行者はいますか？」と健常者が一緒にいるかどうかを聞かれます。そのたび「いません。」と答えますが、

「何かございましたら、私どもは対応しかねますので…」と、やんわりと乗車拒否されることが多いです。けれども、父は身振りやスマホでメモを提示して、「それは差別だ。」とはっきり抗議をしてくれますので、最終的には自己責任という形で乗れることが多いです。私はせっかく家族で楽しむために来たのに、スタッフとはいえ知らない人から遠回しではあるけれど、「聞こえないからだめです。」と割り込まれたら、気を遣いますし、思いっきり楽しめないで、楽しい気分とがっかり感が入り混じっ

たまま、遊園地を回ることになります。

しかし、よく考えてみるとそれも当然かなと思います。事故や地震など何かあった場合、スタッフとしては私たち聞こえない人たちへの伝え方やどう助けたらいいのかなど、考えるのに時間をかけてしまうでしょう。

そういう理由であれば、同行者が必要だという説明を入場受付やインターネットであらかじめ示してほしいです。私たちもそのことぐらひは理解しているつもりなので、傷つかないようにと配慮しているのかもしれませんが、乗りたいアトラクションの目の前で、健聴者という同行者がいないからという理由だけで断られるのはとても悲しいです。

それでしたら、緊急事態に備えて、避難経路をはっきり表示したり、前もってゴールを明確にボードで指示をしたりして、聴覚障がい者でも健聴者でも目で見て安心してアトラクションを楽しめるような工夫をすれば、このようなことはなくなるのではないのでしょうか。

今が青春（成人）

私は、一九四一年大阪市住吉区粉浜で生まれました。四歳の時に、大阪の空襲にあいました。お母さんに手をひかれて逃げたのをかすかに覚えています。空襲で家を焼かれ、堺市に来ました。空襲のことは詳しく思い出すことはできません。ですが、戦争が終わった後も長い間、飛行機の音が怖くてなりませんでした。また、戦争が始まるのではないかと心配になりました。

戦争が終わって、何年かして、母が病気で亡くなりました。私が九歳の時でした。それから、家の用事と妹の世話を私がするようになりました。父は仕事で、家にいないことが多かったのです。その頃の家事は、何もかも手仕事でした。ご飯を炊くにも、火起こしからでした。もちろん洗濯も手です。家の外に近所のお家と共同の水道がありましたが、冬の寒い時には辛い仕事でした。

小学校を卒業すると近くの織物会社に働きに出ました。仕事は何とか人なみにしましたが、職場の友だちや近所の人たちが中学校の話をしているのを聞くのが嫌でした。みんなとても楽しそうに、学校のことを思い出して話をするのです。私はその場にいるのが、とても辛かったです。大人になって、「なんで自分だけ中学校に行けなかったのか？」と何度も考えました。そして、もう一度学校で勉強したいと、心の中でいつも思っていました。でも、それを口にするにはできないまま、時が過ぎていきました。ある時、近くの小学校で夜間中学のポスターを

見つけました。それまで、夜間の中学校があるということは知りませんでした。ああ、こんないいものがあるんだと思いましたが、なかなか夫に言うことはできませんでした。夫にはいつも、「夜に一人で外に出たらあかん。」と言っていたからです。その上、その頃夫は病気がちで寝ていることもありました。

九年前に夫が亡くなり、それからしばらくして夜間中学に入学することになりました。その時すでに私は七十歳になっていました。勉強がむずかしかったらどうしよう、私でも勉強できるのかなと思いながら始まった学校生活ですが、どの教科も、やさしくていねいに教えてくれます。

勉強で特に面白いのは国語と社会です。私はもともと本が好きで、よく伝記や自叙伝などを読んでいました。でも、時々漢字が分からないこともあり、とばして読んだり辞書で調べたりして大変でした。学校に入って難しい漢字もたくさん覚えました。社会科では堺の歴史のことも分かるようになり、行基という偉いお坊さまがいたことも知りました。

勉強ができる今が幸せです。自分に自信を持てるようになり、気持ちも明るくなりました。生徒会役員として、大勢の人前で話もできるようになってきました。これからも一生懸命勉強して、前向きの人生を送りたいと思います。私にとっては「今が青春」です。



堺市人権推進課では、人権啓発DVDを無料で貸出しています。

貸出作品の一覧は

堺市人権啓発ビデオ貸し出し

検索

※書籍の貸出は行っておりません。 ※DVDは日本語音声のみで外国語対応はありません。

お問い合わせは 堺市人権推進課 TEL 072-228-7420 FAX 072-228-8070

DVD



ともに生きる私たちの未来

同和問題

「部落差別解消推進法」が
めざすもの (38分)

部落差別の解消を目的とした「部落差別解消推進法」ができた背景の現実社会とネット上で起きている新たな差別実態を明らかにする一方で、被差別部落にルーツを持つことに誇りと自信を持って活動する若者たちを紹介しています。この2つの視点から、ネット社会の中で新たな局面を迎えている「部落問題」について、「ともに生きる社会」をどう実現していくのかを考えます。

DVD



戦争体験証言集

平和

vol.1、2、3、4

(39分、26分、28分、28分)

第二次世界大戦中の昭和20年、堺は5次にわたる攻撃を受けました。多くの市民が犠牲となった堺大空襲の記録や写真とあわせて、当時堺で暮らしていた方々に、戦時下の暮らしや空襲の被害の模様を語っていただいた映像を収録しています。



DVD



子どもの
人権

「ホームレス」と出会う子どもたち (30分)

なぜ、若者や子どもによるホームレス襲撃が起きるのか？大阪・釜ヶ崎にあるこどもの里が行う「子ども夜まわり」の活動を軸に、参加する子どもたちの変化、ホームレス生活を送る鈴木さんの仕事や生活、その思いに迫ります。この作品では、ホームレス襲撃問題をとおして、居場所（ホーム）なき子どもたちの弱者いじめの問題を考えます。

BOOK



※書籍の貸出は
行っておりま
せんのでご了
承ください。

● 虐待の淵を生き抜いて (毎日新聞出版)

島田 妙子 / 著

● 職場のLGBT読本 (実務教育出版)

柳沢 正和 他 / 著

● 人権ってなんだろう？ (解放出版社)

アジア・太平洋人権情報センター編

● よくわかるスポーツとジェンダー (ミネルヴァ書房)

飯田 貴子 他 / 著

● 知っていますか？SDGs

ユニセフとめざす2030年のゴール (さ・え・ら書房) 制作協力 日本ユニセフ協会

堺市では、「堺セーフシティ・プログラム」により、女性や子どもをはじめ、すべての人にとって安全・安心なまちをめざしています。

これまでの取組の一つである性暴力被害者への支援では、被害者の心身回復のための相談・支援体制の充実や、性犯罪被害に対する社会の偏見や無理解を減らすための啓発等を行ってきました。

今後も、女性や子どもに対する暴力の根絶に向け、取組を推進していきます。



堺市 性暴力相談

検索